

# 社会

## 出題の傾向

地理、歴史、公民の3分野から総合的に出題しています。形式的には各分野別に大問を設定しているように見えますが、各分野を総合的な面からとらえており、かたよった学習や単なる知識の断片の暗記に終わらず、総合社会として学習しているかどうかを確認できるよう出題しています。ただし、出題している内容は必須事項ですので、教科書や資料集などで基本事項を丁寧に整理し、そして総合的に内容を理解し、さらに正確に表現できるまでの受験準備を心がけてください。

## 2019 今年度の出題と解説

今年度の入学考査は、①日本地理、②世界地理、③歴史 ④公民の順で出題しました。地理分野、歴史分野、公民分野ともに出題形式には大きな変化はなく、問い方や考え方は昨年とできるだけ同じ形式になるよう出題を心がけました。今年度の問題傾向と誤答例などについて、気づいた点を下記に分野別で示しておきます。

### ①日本地理

出題傾向としては、各都道府県の地理的な特徴を[表]から読み取り、その都道府県の場所、更にその都道府県の様子を一致させる問題でした。解き方としては、まず[説明文]を読んで4つの都道府県を導き、地図を見てその都道府県を結びつけた後、[表]にのせられている各都道府県の特徴の中からヒントになる項目に注意し、その項目の数値に近いものより、空欄の都道府県を特定するという手順で解答していく手法が有効です。今後も、1つのテーマ[農牧業・資源(林水産・エネルギー・鉱物)・工業製品など]について、教科書で学んだ基本事項を地図や地図帳の表・資料と照らし合わせて総合的にまとめていく学習法が有効です。今回の考査では、特に(あ)の正答率が低かったです。(あ)の示す都道府県は、製造品出荷額が最も高い事から、愛知県を導きだします。また、[説明文]の③にある“三大工業地帯の1つ”“渥美半島・知多半島”“電照ぎくなどの施設園芸農業”といったキーワードを基に愛知県を導き出すことができます。問2の雨温図の問題も正答率が低かったです。冬季の降水量が比較的多い事から日本海側の気候であると判断

できればAの秋田県が導き出せたはずです。

### ②世界地理

世界地理は、比較的解答しやすい問題であったように思います。そのため、正答率も全体的に高くよくできていました。正答率が低かった問題としては、問1(4)の雨温図の問題です。問3は、発電電源の割合(2014年)と日本・フランス・ブラジルを一致させる問題でした。Pは原子力発電の割合が高い事からフランスを示しています。Qは火力発電の割合が高く、東日本大震災(2011年)以降原子力発電の割合が低くなっていることから日本と判断することができます。Rは水力発電の割合が高いことからアマゾン川の豊富な水力を利用した発電の割合が高いことでブラジルであると判断することができます。問4は、イの中国と判断した誤答が多く正答率が低かった問題でした。また、時差を求める問題は、今後も出題していきますので、出来るようになっておきましょう。

### ③歴史分野

今年度も、古代から現代の歴史までをA~Iの各文で幅広く出題しました。問われた内容のほとんどが歴史上の人物や歴史上重要な用語であり、比較的よくできていました。しかし、記述問題では漢字の間違いが目立ちました。正答率が低かった問題としては、問1(8)・問4・問6・問12です。また、問4は、正しいものをA~Eからすべて選ぶという初めての出題形式でした。来年度以降もこの形式の出題は続きますので、問題をしっかり読むように心

掛けましょう、例年ですが世界史分野・文化史・近現代史を苦手とする受験生が多いように感じます。来年度以降もこういった受験生が苦手とする分野の出題はありますので、古代から現代までをまんべんなく学習するように心掛けてください。また、高得点をとるためには、日本史・世界史の各時代の内容整理（政治史・文化史）とともに、学習し理解した内容を、必ず漢字で正確に表現できるよう日頃から心がけて学習を進めておきましょう。

#### ④公民分野

今年度も、新聞の社説からの出題でした。全般的にはよく出来ていましたが、問1・問2・問4・問5・問6の正答率が低かったです。日本国憲法や日本の政治のしくみなどは必出事項です。問10は、文章をしっかりと読まなければ解けない問題となっています。社会保障や国際組織、時事的な問題についても基本的な事項をしっかりと押さえておく必要があります。また、例年経済・金融分野の問題もよく出題しています。このような問題に対応するためには、近年の国内、国際面でのニュースに常に関心を持ち、教科書の基本事項を理解し、正確に表現・選択できるよう日頃から心がけて学習しておきましょう。

## 対策と アドバイス

今年度の入試は、①日本地理、②世界地理、③歴史、④公民の大問の出題でした。この出題形式は来年度も継続する予定です。多少出題傾向は変化するかもしれませんが、教科書や資料集などを中心とした出題に変化はありません。今後も基本問題を中心に出題していきますが、「基本」は決して簡単というわけではありません。単なる暗記で対応できる問題だけでなく、理解をしているかどうか重点をおいた出題を常に心がけています。まず①日本地理では、地図、都道府県の農牧林水産業や工業の様子などを理解しておきましょう。②世界地理では、地図、世界の国々・地域の特徴などを理解しておきましょう。また、時差の計算はできるようになっておきましょう。地理分野では、統計・グラフ等は必ずチェックしておいてください。③歴史では、教科書や資料集などにのっている歴史的な作品や図・資料は必ずチェックしておいてください。④公民では、最近の出来事にも関心を持ち、日頃から新聞の記事などにも興味をもつことが重要です。

どの分野においても、教科書・資料集などで基本事項をしっかりと整理し理解を深めれば、高得点をとる事ができるでしょう。